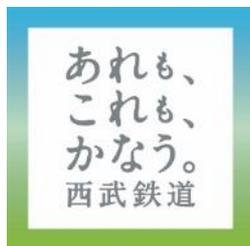


# コロナ禍の影響と対応

2021年7月5日  
西武鉄道株式会社

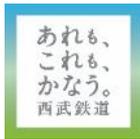




# 目次



1. コロナ禍によるご利用状況の変化
2. コロナ禍を踏まえた現状における取組について
3. 今後の見通しと将来の取り組み等



# 1. コロナ禍によるご利用状況の変化

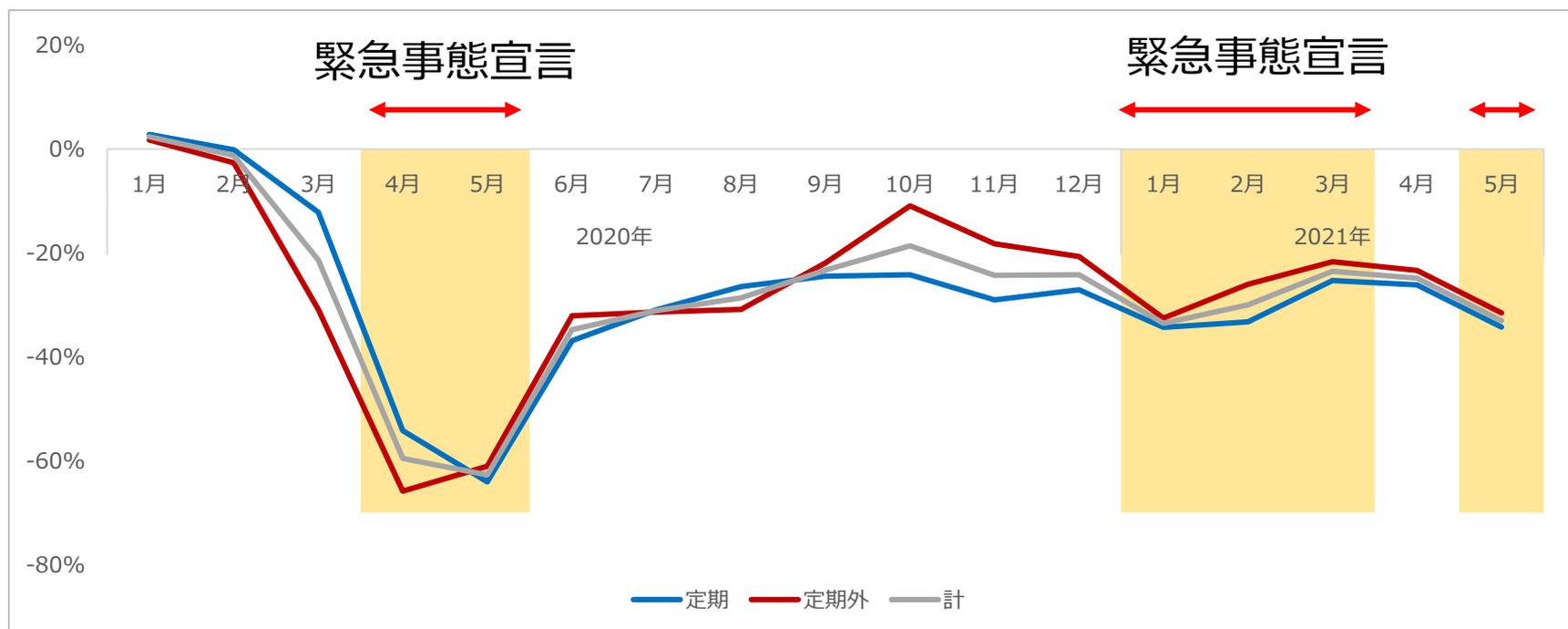
## (1) 乗降人員※の推移

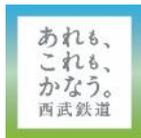


※乗降人員：自動改札機を通過した人数

- ✓ 新型コロナ感染拡大に伴い2020年1月以降乗降人員が減少、最初の緊急事態宣言期間では対前年同月比で約6割落ち込んだ
- ✓ 最初の緊急事態宣言解除以降徐々に回復傾向にあったが2、3回目の宣言発出により回復傾向に歯止めがかかった

### 【乗降人員 対2019年同月比増減率の推移】





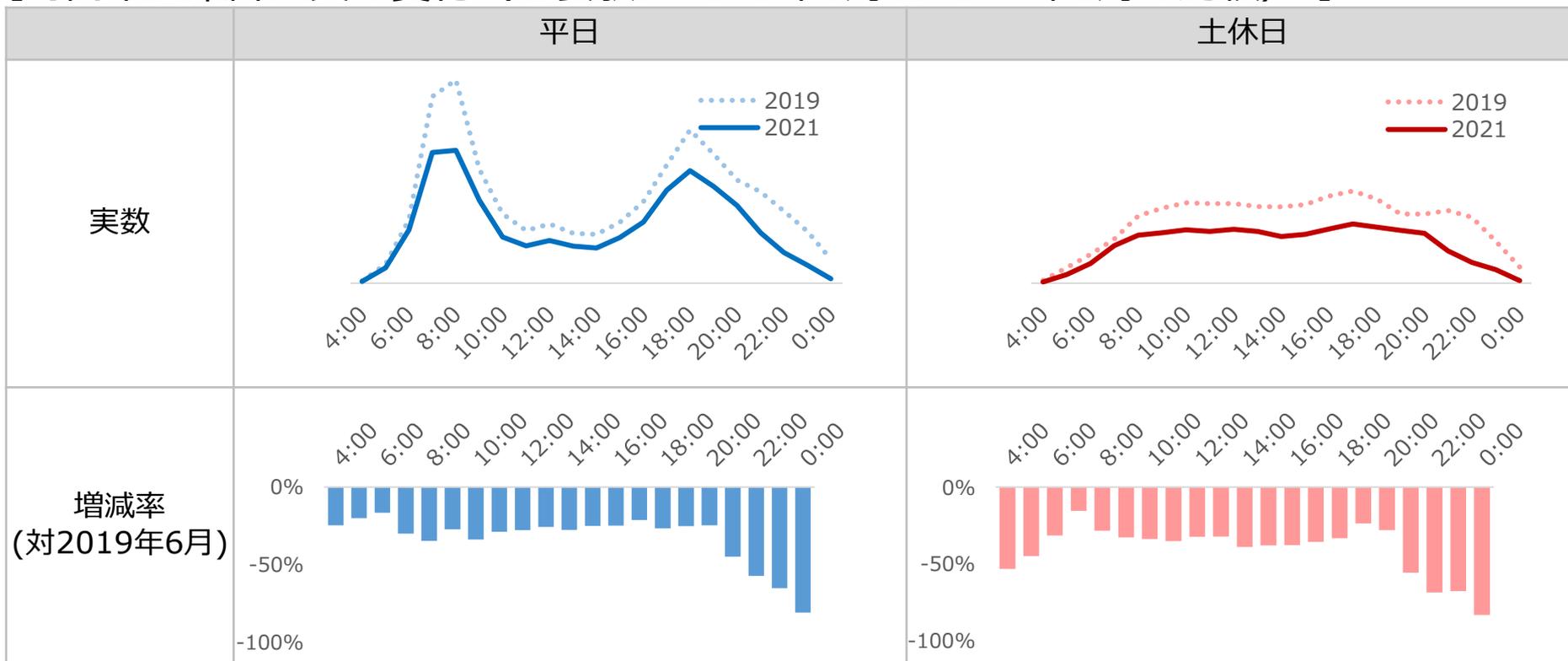
# 1. コロナ禍によるご利用状況の変化

## (2) 時間帯別の変化



- ✓ 平日は早朝時間帯の減少率が低く、飲食店が営業していない21時以降減少率が急激に上昇する
- ✓ 土休日はレジャー・買い物等の移動需要が減少したことにより、平日に比べ早朝・日中の減少率が大きい

【時間帯別乗降人員の変化（池袋駅、2019年6月と2021年6月の比較）】





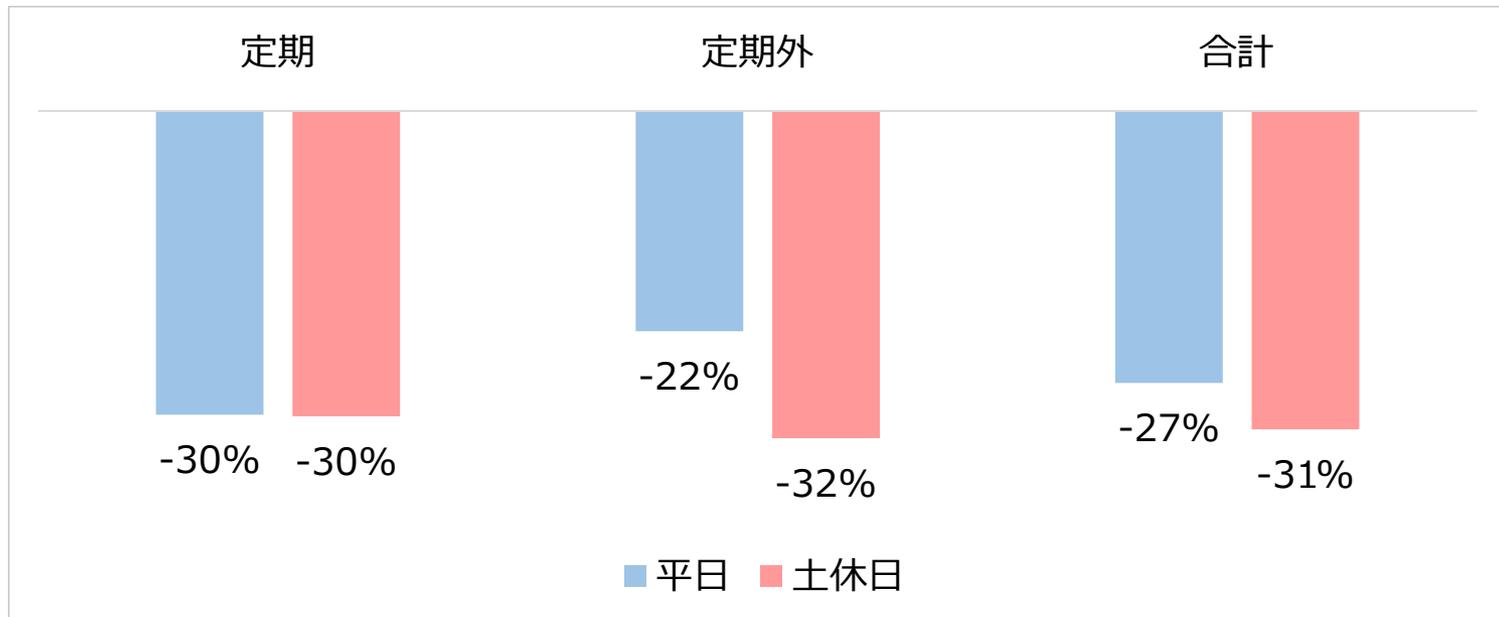
# 1. コロナ禍によるご利用状況の変化

## (3) 券種別の変化



- ✓ 定期利用は平日・土休日の減少傾向に差はない
- ✓ 定期外利用は出控え等の影響から土休日の方が落ち込んでおり、全体としても平日に比べ土休日の方が減少幅が大きい

【券種別の乗降人員の変化（2019年6月と2021年6月の比較）】





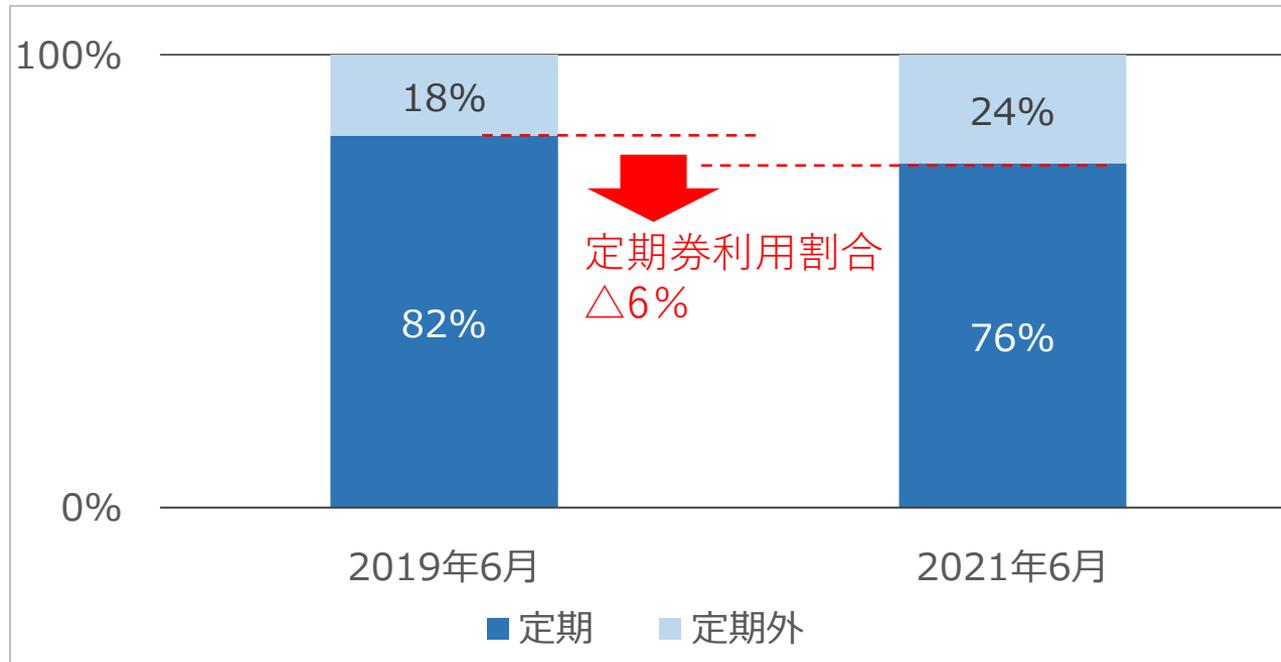
# 1. コロナ禍によるご利用状況の変化

## (4) 定期券利用割合の変化



- ✓ 平日6時～10時に池袋駅で降車した人の定期券利用割合がコロナ前に比べ6ポイント減少
- ✓ テレワークの進展により通勤頻度が減少し、回数券利用やIC乗車券利用に移行が進んでいると考えられる

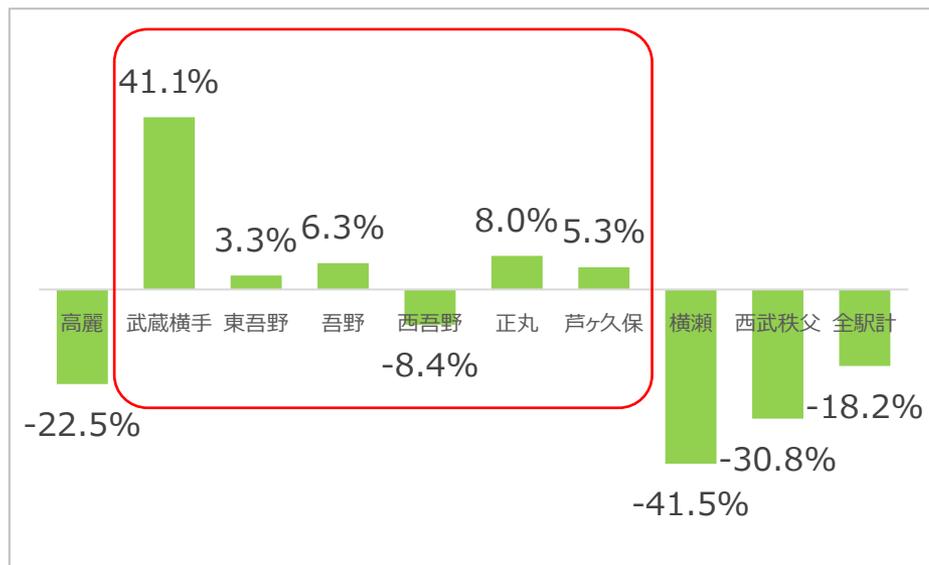
【平日6時～10時における池袋駅降車人員の券種別利用者割合】



# 1. コロナ禍によるご利用状況の変化 (5) ハイキング需要の増加

- ✓ 2020年11月における定期外乗降人員は全線で△18.2%であったが、秩父エリアでは増加傾向に転じた駅があった
- ✓ コロナ禍において、密を避けて屋外で楽しめるハイキングの需要が高まっていることが考えられる

## 【2020年11月における秩父エリア各駅の定期外乗降人員対前年比】



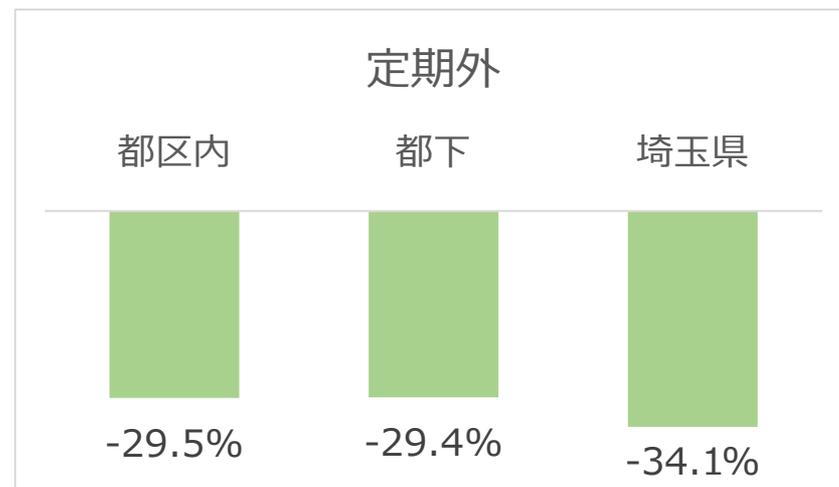
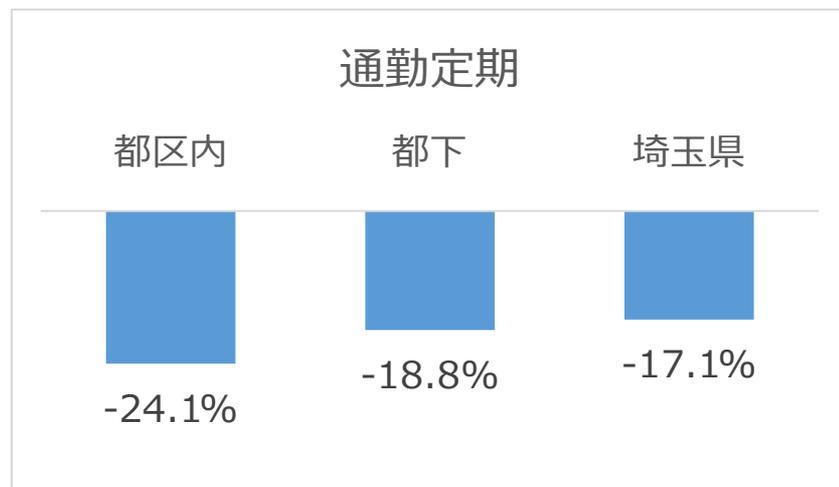


# 1. コロナ禍によるご利用状況の変化 (6) 2020年度にエリアごとの傾向



- ✓ 通勤定期・定期外とも乗降人員の対2019年度減少率にエリアごとに差異が見られた。
- ✓ 通勤定期は都心に近いほど減少率が高く、都心部にテレワーク等が可能な職種の人が多く居住していると推察される。
- ✓ 定期外は西武ライオンズ観客動員数の減少や各種イベントの中止が影響し、都心部に比べて埼玉県の減少率が大きい。

## 【2020年度におけるエリア別乗降人員増減率（対2019年度比）】





# 1. コロナ禍によるご利用状況の変化 (7) 当社が取り組むべき重点課題



## 【コロナ禍による事業環境の変化】

- テレワークやリモート講義の浸透による定期利用者の減少
- 外出自粛をはじめとする出控えによる定期外利用者の減少
- 密への嫌悪感による大規模イベントの減少



## 【当社が取り組むべき重点課題】

- I. 固定費削減を企図した経営改革の断行
- II. お客様の行動の創出
- III. サステナビリティアクションの推進

## 2. 現状における取組について



駅設備及び電車内の消毒、車両の換気



MaaSアプリ「SeMo」の実証実験



駅ナカコンビニで無人決済システム導入  
(夏頃を予定)



PCR 検査クリニック を池袋駅に開院



ハイキングシーズンの特急電車を臨時停車

Seibu Group

#### (1) コロナ禍の影響を踏まえた今後の見通し

- ✓ 2022年度にはコロナ流行は収束に向かい、2023年度にはインバウンド、国内景気は回復していくと想定。
- ✓ コロナ禍で進んだ価値変容、行動変容（リモートワーク、オンライン会議の広がりなど）は、アフターコロナの社会においても定着していくと想定しており、それに対応しビジネスモデルを変革。



## (2) 将来の取り組み等

### ① 損益分岐点の引き下げ

- ✓ 需要に合わせたダイヤ
- ✓ "グリーン"な車両の利活用

⇒ **必要人員数、保有車両数の適正化、  
電気動力費・燃料費の削減**



- ✓ 駅業務・運転業務のスマート化

⇒ **将来的には無人オペレーションを取り入れ  
新たな時代に 対応したスマートな事業運営に挑戦**

## ②ニューノーマルに合わせたサービス改革

- ✓ コロナ禍で近場のレジャー需要が拡大していることを受け、グループで運営する豊富なレジャー施設を活用して移動需要を創出。
- ✓ 2021年5月19日には「心あたたまる幸福感に包まれる世界」をコンセプトに西武園ゆうえんちをリニューアル。

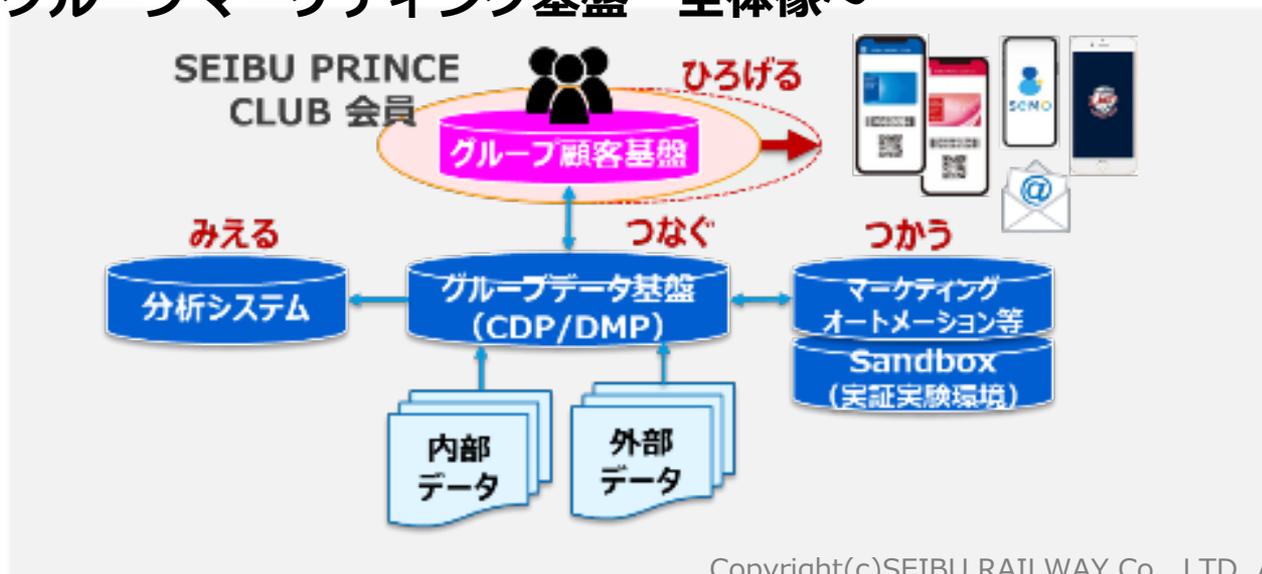


## ③ デジタル経営

グループ内外のデータをつなぎ利活用することで、お客さまの価値感・行動の変化を捉えたサービス変革と新たな顧客価値創出に繋げ、「西武グループのファン」を増やす。

- グループ会員組織「SEIBU PRINCE CLUB」を中心に、会員組織を統合、サービス連携し、「グループ顧客基盤」を拡大。
- 「グループマーケティング基盤」を構築し、2021年度より順次利活用を開始。

### ～グループマーケティング基盤 全体像～



## ④サステナビリティ

### 安全

#### ●安全安心



事故防止、感染症予防対策



自動運転  
実用化への取り組み



### 環境

#### “グリーン経営”

- 温室効果ガス削減
- 廃棄物削減
- 水資源の確保
- 森林や生物保護



### 社会

- 沿線・周辺自治体活性化
- ユニバーサルデザイン対応
- 少子高齢化



所沢駅西口開発計画

西武ライオンズ「L-FRIENDS」



貸農園  
「エミファーム」展開



賃貸ユニットハウス  
「エミキューブ」展開



### 会社文化

- 働き方改革
- 多様な人材雇用
- 従業員教育・管理
- コンプライアンス  
サテライトオフィス拡大



株式会社アルムなどとの連携による従業員の健康管理

